

楽しさを求めよう！

千代田の皆さん、お元気で過ごすごしのことと存じます。

「コロナ禍」と付き合いながらの二年余ですが、私たちを取り巻く最近の状況は、人と人、国と国の信頼や絆を否定するような悲惨な事象に直面する日々であり、本当に残念の極みです。お互いに、明日への希望をもって過ごしたいと願っています。

岳精流日本吟院

ちよあ

第 69 号

令和 4 年 7 月
千代田岳精会弘報

令和四年岳精流指標

楽しみをなす

会長 鈴木 精成

年間を通して、会として、また一人ひとりの吟精進の成果を確かめる大事な行事としての、令和四年「昇伝審査会」が四月二十日（水）新宿文化センターで、宗家横山精真先生はじめ、副幹事長秋山精正、婦人部部长越智精麗両先生をお迎えして開催されました。一―三名の会員の皆様が平素の研修成果を披露し、先生方の懇切な指導を頂きました。三先生には厚くお礼申し上げます。

今回から、審査グループ分けを会横断の「層別グループ」方式とし、従来の「教場家族」から「同等吟友交流の場」に切り替えました。不安もありましたが、「他教場の仲間の色々な吟を聴くことが出来、参考になった」等の感想あり、よかったです。当日お世話役を担当いただいた幹部先生方にも心から感謝申し上げます。

今年前半のもう一つの会行事として、女子部研修会が五月三十日（月）新宿文化センターで開催されました。八十名余（有志の男子を含む）の方々が参加し、宗嗣横山龍精先生の熱意溢れるご指導で大変な盛り上がりでした。「コロナ禍」の影響で女子会員相互の交流が途絶えてきたこの二年間でしたが、この日はそれを埋め合わせた絶好のチャンスだったでしょう。皆さんの晴れ晴れしたお顔が印象的でした。

この「ちよあ」六十九号発行の頃は「全国吟道大会」参加の余韻冷めやらぬ頃かと思えます。創流四十五周年という記念の秋を共に祝う喜びを噛

みしめましょう。

こうして、本年も後半を迎えますが、十月にはいよいよ「千代田岳精会創立三十五周年記念の集い」を開催いたします。昨年「記念大会」を見合わせたことから、今回は「集い」としての開催とし、思い切って会員全員複数回出吟を目指して「オール合吟」という方式で開催することになりました。既に月を追って準備が進められており、これから教場や教場横断のグループでの練習が忙しく進められることと思いますが、お互いによき連携を図っていただき、本番に備えて下さるようお願いいたします。

この程本部から発行された「語録」のなかで宗家は、令和四年指標「楽しみを作す」に因んで、「意義ある真の楽しさを真剣に楽しみましょう」と呼びかけておられます。私たちが機会あって親しんできているこの詩吟の世界で、これからも幅広く楽しさを求めていきたいものです。

最近の嬉しいことをご報告します。東陽町支部教場で小林俊晴君の復会です。剣舞の師範をしておられるお父様とお母様に連れられて、小学生高学年の「小林少年」が温習会などで元氣よく「鞭声肅々」などと吟じていましたが、その彼が大学生となり、五月に戻ってきてくれました。おめでとう！これからの若々しい活躍を祈ります。

「八十歳の壁」という本を手にしました。「学びをやめたら年老いる。行動は学びの先生だ」とありました。吟道精進に壁なしです。楽しみましよう。頑張りましよう。

創流四十五周年記念

全国吟道大会開催

コロナ感染蔓延で一昨年は中止、昨年はコロナに負けない大会と、十分に実施できなかった記念大会が感染予防に手を尽くして、六月十一日川崎市カルッツかわさきで日本吟剣詩舞振興会 沼崎富会長はじめ二十六名のご来賓をお招きして開催されました。

まだ鎮静化とは言えない状況で、会員参加は全国とは申せませんが、鹿児島支部の五名など十会九支部、二十二教場から六六〇名の参加申し込みがあり、千代田は地元会として男子八十七名、女子六十五名、総数一五二名が申し込んだ。大会を支える大会役員には会場係の他、式典、司会、舞台、運搬に諸会連合として大会を支えた。担当の皆さんご苦労様でした。

舞台を彩る剣詩舞に小谷野煌弘、松尾千壮、横山千秀と三流派会長が登場、構成吟「日本の歴史を尋ねて」に鈴木精成会長、徳本龍治副会長、犬飼勇風、関根雄山の四名が出吟した。感染防止に最大の配慮で取り組んだ大会も大きな事故なく終了出来、関わった全員が安堵の大会であった。



千代田、男子合吟チーム



千代田、女子合吟チーム

構成吟「日本の歴史を尋ねて」



関根雄山 (大村)古川龍慧



犬飼勇風



鈴木会長



(相模)野中精隆 徳本龍治

全国吟道大会構成吟に出場して

生田副教場長 関根 雄山

初めに、会場係の任務に当たって頂いた会員皆様のお陰で無事大会を終えることが出来ました。この場をお借りしお礼申し上げます。有難うございました。

本部から構成吟出場の連絡があった日から、ほぼ毎日練習を行い暗譜でどこでも吟じられるようになり大会に臨みました。結果は途中絶句と失敗しました。コンクール等に出場し、舞台慣れはしていたと思っておりましたが、千人近い会員、来賓各会派の宗家先生方の前での吟は重圧があったと思います。

失敗し席に戻った私に「良かった」「少し絶句したけど声が良かった」と何人もの会員が励ました声をかけてくれたのです。この時『吟友は本当に良い』と言われていた宗家の言葉が浮かんできました。私にとって、この大会は私と吟友との大会でもあったと思います。

この失敗を糧に吟力向上に努めたく思っておりますので皆様方のご指導を賜りたく宜しくお願い申し上げます。



千代田岳精会人事

◇女子部

部長 藤村 恵風

副部長 武藤 光風

副部長 乙訓 稜山

副部長 中野さと美

顧問 手塚 勝風

◇研修部門

リーダー代行 小浦場伯山

◇許証部門

リーダー 西川 琉泉

顧問 宮野 秀風

◇総務部門

リーダー 鎌田 秋山

サブリーダー 犬飼 勇風

◇経理部門

リーダー 青木 憲山

顧問 西山 定風

◇東陽町ブロック

副ブロック長 脇阪 緑山

◇東陽町支部教場

教場長 伊藤 雄山

◇表参道教場

教場長 松岡 省泉

◇神田教場

教場長 中屋 明泉

副教場長 宮川 丞風

副教場長 久保 杏泉

以上、令和四年一月一日付

◇用賀教場

副教場長

坂部 玄泉

以上、五月一日付

◇鎌倉教場

教場長

長谷場純山

副教場長

阪川 信泉

顧問

犬飼 堯風

以上、六月一日付

ミモザ世田谷教場開設にあたって

教場長 片山 寿風

この度、東陽町教場から独立させて頂きました。教場は、田園都市線、小田急線、京王線を結ぶ東急世田谷線の「宮の坂」駅に隣接した「宮の坂地域センター」を利用しております。基本的には一・二・三週の水曜日、午後一時から三時です。

ミモザの花は春を告げる花木の黄色の可憐な花で、一粒一粒の小さな花が沢山集まり群れの美しさが眼を惹きます。皆様一人一人が集まってグループとしても輝けていけたらと願っております。「感謝」「友情」という花言葉のように、皆様との出会いに感謝し友情を深めていけたらと思います。

女子部部长を拝命して

女子部部长 藤村 惠風

この度、手塚勝風さんの後任として女子部部长の大役を仰せつかり、若輩の私がうれしい反面、

責任の重さに身が引き締まる思いです。経験豊富な先輩方が女子部には多数いらっしゃいますので、ご指導、ご協力のもとで女子部研修等、微力ながら尽くしてまいりますのでご支援、ご協力をお願い申し上げます。挨拶といたします。

表参道教場長就任のご挨拶

教場長 松岡 省泉

当教場は産声を上げて一年と四か月を経ることが出来ました。当初から徳本先生のご指導および開設に尽力を頂いた、青山学院の要職にあられる堀田宣山準師範の元に現在十三名のメンバーで運営しています。全員が日中は勤務、月二回夕刻から吟指導が行われています。そして令和四年一月から私が教場長という大役を拝命致しました。

以前は好きでもなかった漢詩でした。只大声を腹の底から出せることに魅せられ、詩吟を始めました。一月に習得した「焦心録後に題す」高杉晋作等、国の危機を憂う漢詩の意味を吟じながら感じることに少しずつ近づいて来たように感じます。四月の昇任審査は四名が初段に挑戦しました。これからも吟じることによって健康を維持し、全員が「真善美」を意識して、お互いに支え合える「思いやり教場」となる様に微力ながら役立たせて頂ければと思います。宜しくお願い致します。

東陽町支部教場長を拝命して

教場長 伊藤 雄山

会社の先輩に紹介され教場を見学してからアツと言う間に十年が過ぎました。

少し吟の奥深さを感じるようになりました。昨年夏、宮野教場長から教場長を打診されました。私は吟の知識もなくうまく吟じられないから到底無理ですとお断りしました。しかし度重なるお話で私はこれも自分の成長の為に出来るだけ前向きに進んで行きたい気持ちになりお引き受けすることにしました。

伝統ある支部教場の運営の一端を担うことの重大さをひしひしと感じています。もとより実力不足の身、先輩、皆様のご支援を頂きながら前教場長の路線を引き継ぎ、更に勉強になる教場、行くのが楽しくなる教場を目指して日々努力を重ねて行きたいと思っております。

教場長をお受けして

鎌倉教場長 長谷場純山

この度、六月一日付で鎌倉教場の教場長を命ぜられました。大変重たいお役目であり、また大変な遅咲きでもありますので、心身ともに健やかとは言い難い身にとりましては、かなりの重圧を感じております。

然しながら、諸先生方を始め吟友の皆様方に引き続きお助け頂いて、第一に吟力の向上、そしてメンバー相互の親睦や他教場との連携など、教場

の雰囲気作り等に微力ではありますが努めて参りたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



春の昇伝審査

練習不足を越えて挑戦

新型コロナは吟を学ぶ者に多くの支障をもたらしながら依然として蔓延が止まったと言える状態ではありません。昨年は苦しみながら十一月三十日に開催し、やっと年内実施が出来ました。今年春の開催を目指し、これまでの教場別から初めて層別での審査でした。

活動自粛は新しい会員の入会に大きく影響し、毎年二〇〇名前後の受審者数からいうと大幅に減少したとは申せ、一―三名を超える受審者が参加し、西川許証部門リーダーの周到な準備で開催できました。

総本部から宗家、秋山精正副幹事長、越智精麗婦人部長の三先生を審査員にお迎えして四月二十日、新宿文化センターで開催されました。

教場が開けない環境のなか審査に挑戦した受審者に対して懇切な指導と審査があり、終了後の講評では「個々の練習不足を補う指導を含めて審査した」「これからの期待を込めて指導した」との言葉を頂きました。長時間有難うございました。

◇中伝合格者

丸の内支部

鎌倉

清流

新宿支部

同

同

新宿第二

新宿第三

同

九名

川口 心山

唐澤 溪山

西川 規山

小倉 孝山

川合 利山

町田 恵山

荒井 恵山

湯田 雲山

井上 幸山

◇初伝合格者

桜ヶ丘

永山

同

東陽町支部

同

同

ミモザ世田谷

神楽坂

鎌ヶ谷

志茂

新陵

みなとみらい

同

同

新宿支部

十五名

岸本 良泉

今 純泉

森田 正泉

井上 昭泉

吉原 雅泉

和田 洋泉

岡島 未泉

直井 道泉

赤岩 香泉

水田 弘泉

吉田 勇泉

岡野 弘泉

山上 信泉

高宅 益泉

岡部 正泉

初の層別昇伝審査会

許証部門リーダー 西川琉泉



受審の様子

元旦に新宿文化センター抽選結果の発表があり、昇伝審査会場が四月に首尾よく確保できたことに大喜びしたのも束の間、鈴木会長の「層別の審査会を検討してみしてほしい」とのご指示に、開催までに間に合うのか？と一時、暗澹たる気分になりました。

層別審査の概念を理解すべく、先輩方や本部に

も確認したところ、「千代田岳精会（以下「千代田」）の参加者を横断的に、吟歴の浅い方から六段申請者まで順番に並べていけばよい」というものでした。本部からは「全国でそれをやっていないのは千代田だけ」と聞かされ、大いに驚きもしました。

実施にあたり効率化の観点から、「審査番号」の付与と「推薦吟題」の導入を図りました。幹部方のご意見も伺いながら、二月初めに何とか運営概要をお示しするところまで漕ぎつけ、二月末の申請書提出を教場長の皆様にお願ひしました。締切日は、当方の拙い説明にもかかわらず一点の誤りもない書類が出揃っているのを見て、主旨をご理解いただいたことへの感謝感激と共に、新方式でやれる自信も湧きあがった瞬間でした。

本部から宗家を含む三名の審査員をお迎えすることとなり、グループ（層）と審査会場を各々三つに分けました。そして、各会場の運営は「統括責任者」をトップとするスタッフ団を、六段以上保有の（吟歴の）先輩方で編成していただきました。審査会当日は、おかげさまで大きな混乱もなく無事に終えることができました。

宗家はじめ審査員の先生方も、初の層別審査会に対して概ね良い印象を持たれたようでした。受審された方の感想も新方式に肯定的なものが多かったように思われます。

審査会日程と方式変更の発表から開催まで短期間であったため、練習不足や準備不足の点があったことも事実であり、それらの反省点を次回以降に生かしていきたいと思えます。そして、層別

審査の定着が千代田会員の団結と吟詠力向上につながるれば幸いです。最後に、ご協力いただいた多くの皆様に御礼申し上げます。

初めて雅号を頂いて

鎌ヶ谷 赤岩 香泉

私が詩吟を始めたキツカケは、私が体調を崩していた時に知り合いの方から詩吟をやると健康になるという一言でした。詩吟のことを全然わかっていなかったのですが、今の教場が近くにあったので体験させていただきました。

最初は全然わからなかったのですが、先生方のご指導のお蔭で楽しく続けてこられました。コロナ禍で教場がお休みの時もありましたが、ホームページの範吟を聴いて勉強出来ました。今はチューブとかも見て楽しんでいきます。

今回の昇伝審査で雅号を頂いて、これからは教場の練習と研修などに積極的に参加し、詩吟を楽しく学んでいきたいと思えます。

この年で雅号

志茂 水沼 弘泉

今春四月二十日開催「初伝審査」に出場させて頂き、図らずも雅号「泉」を戴き「弘泉」を名乗らせて頂くこととなりました新入生です。審査員の諸先生、志茂教場の諸先輩にはご心配、ご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

四年前、心臓が右半分しか駆動していないと宣告されました。幼年時には家に引き籠もりっぱなし、小・中学校時代は最前列、高二の秋鉄棒にぶら下がり三か月、急に背が伸びました。体質の理由が判った訳です。

八十七歳にして雅号の名取り。皆様の何十分の一の時間しかありません。追いつける訳はありませんが、出来る限り吟じて行きたいと考えています。今迄が全てそうでしたから。

よろしくご教示下さい。

初伝審査を受けて

新陵 吉田 勇泉

令和四年四月二十日の昇伝審査会にて越智精麗先生のご指導の下に昇伝審査を受け、無事合格できました。

私は鈴木精成会長の勧めで平成三十年二月四日に見学に伺わせて頂き、十二月六日に正式に入会させて頂きました。初めに「初冬の作劉京文に贈る」蘇軾作を教場の皆様と一緒に吟じました。

「詩吟修得手帳」には呼吸法の確立と記入されていますが、何を勉強したのかは記憶にありません。

詩吟を習い始めて丸四年、途中からコロナ禍の影響で対面学習が出来なくなりましたが、オンラインでの教場を開いて頂き、勉強できる場と新しい教場での出会いを楽しむことが出来るようになりました。詩吟を始めてから初めての漢詩や俳句との出会いに戸惑いもありますが、自己研修の場として活用させて頂いております。今後も教場

の方々に教えて頂きながら精進していきたいと思っておりますのでよろしくご指導の程お願いいたします。



受審風景

令和二年度 昇伝審査

初雅号の感想

初伝審査に臨む

東陽町支部 平居 俊泉

足掛け二年振りの新宿で右往左往しながら新宿文化センター会場に辿り着き、小林先生の前で極度の緊張状態で「黄鶴樓…」を吟じました。前半はともかく、後半は息苦しくなり、声がかすれだし青息吐息で終わり「大息のところではしっかりと息を吸い込みなさい」と先生よりコメントを頂きました。

「練習で本番を、本番では練習を意識して」と言われますが蚤の心臓の私には難題です。コロナ禍の二年間、対面ではなくオンライン学習となり、

最初は戸惑いましたが、新宿までの往復三時間と交通費が節約となり大いに助かりました。またホームページに範吟と伴奏が常に更新され、詩吟へのアクセスが容易となり、今まで以上に詩吟に接する機会が多くなりました。事務局の皆様にご感謝申し上げます。

初伝に挑戦して

清水 山根 敏泉

本来、昇伝審査は四月の予定でしたが、全世界に蔓延しているコロナ禍のため延期、十一月三十日に新宿文化センターで開催されました。

小林先生からは「声は強く出していますが、山のぼりが少し足りません」とご講評。

雅号「敏泉」を頂けることが出来、有難うございました。

思えば清水教場に入会して四年目、始めの頃は声の出し方もノド声で漢詩もなかなか覚えられず苦戦の連続です。しかし徳本先生、細川教場長そして諸先輩の方々からの温かいご指導のお蔭で少しずつですが、腹式呼吸での発声が出来るようになってくると、毎回の教場行きがとても楽しくなり感謝の想いでいっぱいです。

現在、私にとって詩吟は心身ともに最高の健康法になっています。教場に向く時は、心はとても軽やかですが歩行は足腰の重さに負け、人の倍以上時間を要します。今回の経験を経験を糧にして、日々の練習を積み重ね精進して参ります。

今後ともお世話になります、ご指導の程よろしく

しくお願いします。

昇伝試験を受けて

みなとみらい 安田 恵泉

名前を呼ばれ、家吉先生の前に立ったら伴奏が始まって我に返り、久し振りの緊張感を味わい、試験が終わったらほっとして開放感がありました。吟を友とし諸先生、諸先輩のご指導をいつまでも賜りたいと思っています。

「初伝に」

東陽町支部 荒木 秀泉

教室が対面からリモートに変わってから千代田・東陽町教場は急速に自習の環境を整えて下さいました。おかげで毎週ホームページの範吟を兎に角繰り返し聴く予習を欠かさず行うことが可能になりました。更にリモート教室の録画を教場長が送って下さるので、指導個所の修正に加えて、改めて範吟に倣って節調とアクセントの修正・復習を行えました。こうして一吟ずつ課題吟を私レベルで自分の吟にしてまいりました。

この二年間の東陽町流のこうしたりリモート教室により、教場長、副教場長のご指導と動機付けによって詩吟が楽しくなり自主性が湧出、お陰さまで初伝を戴くことができました。これからも尚一層精進してゆく所存です。有難うございました。

雅号「泉」を拝受して

みなとみらい 西多 英泉

皆様、明けましておめでとうございます。昨年十一月三十日、新宿文化センターで昇任審査会が開催されました。審査員は家吉先生で審査前に参加者の緊張を和らげるため全員で簡単な体操の音頭をとって下さいました。

指定吟題二題のうち男性は李白の「黄鶴楼...」を、女性は大槻盤溪の「平泉懷古」でした。

お陰様で若干リラックスでき、しかも指定吟が自分の好みの詩であったためか、暗唱通り吟じ、無事合格することが出来ました。

これまで振り返りますと、私はみなとみらい教場の一期生で通算五年が経ちました。初めより鈴木会長直々のご指導や本部の諸先生のご指導のお蔭でありまして、改めて感謝申し上げます。高齢のため覚えが悪く上達しませんが、継続は力なり、引き続き頑張りたいと思っています。

雅号をいただいて

みなとみらい 宮本 晃泉

詩を吟じてその作者の心情を感じる。音楽好きな晃泉にとって大好きなことです。

人は皆様の健康と世界平和を願っています。孫の結婚式で祝い唄を吟じたい、愛の歌を歌いたい。一十一〇〇（無限大）

そんなこんなでいただいた雅号を大切に、皆様の健康、世界平和を実践します。

日本吟剣詩舞道連盟 吟詠コンクール

年が改まるとスタートする諸行事の嚆矢である吟詠コンクール。世界中に蔓延した新型コロナウイルスが次々と変種となり順調に開催出来なくなつて二年が過ぎましたが、今年も港区連は二月六日の大会が開催出来ず、参加各流派に申し込み数で都大会出場者を選出ということとなり後記の方が出場されました。

品川区連では三月二十七日（日）荏原文化センターで開催されましたが、三十一名の申込者のうち五名が参加できず二十六名が出吟、後記の方々が都大会に出場となりました。

都大会は荏原文化センターで五月三・七・八・十四日に開催されました。一部の石井寅山氏（新宿）が奨励賞、二部の中野陽風さん（新宿）が二位に入賞され中野さんは東日本大会に出場されます。

○港区 都大会出場

二十一名

- 二部 (永山) 大森 美泉
- (ミモザ世田谷) 岡島 加泉
- (金町) 吉川 福恵
- (ハザマ支部) 伊藤 環山
- (丸の内支部) 座間 萌泉
- (ミモザ世田谷) 片山 寿風
- 三部 田村 瑠風

○品川区 都大会出場

十一名

- 一部 奨励賞 石井 寅山(新宿支部)
- 二部 二位 中野 陽風(新宿支部)
- 四位 石坂 桂泉(新宿支部)
- 五位 中野さと美(神田)
- 三部 十三位 岡部 禎風(新宿第二)
- 十八位 平井 武山(神田)
- 十九位 粕川 龍紘(神田)
- 二十位 宮川 丞風(神田)
- 二十三位 松本 徳山(用賀)
- 二十四位 久保 杏泉(神田)
- 二十七位 乙訓 紫山(新宿第四)

(神楽坂) 土居 佳山
袖井 孝山
金城 明山

(ハザマ支部) 白井 洋子
犬飼 勇風
日吉 薫風

(生田) 小浦場伯山
宮永 明山
三島 寿山

(新陵) 金澤 眞一
関根 雄山
小梶 湖山

能島 浄泉
西川 琉泉

新陵教場 浦谷顧問

歌集の紹介

新陵副教場長 和田 之山

新陵教場の浦谷江風顧問（元教場長）は千代田岳精会にて詩吟を続けられる傍ら、平成十五年より、地元川越のNHK文化センター教室にて短歌の研鑽を重ねられ、平成二十八年に歌集『うみなる湖』を世に出されました。また令和三年には第二歌集『柿の木』を出版され、新陵教場では最近教場課題吟として浦谷さんの歌を吟じました。

出でたるは捨てたることにかはりなく
今にし思ふふるさと遠し

浦谷さんの歌は、多くの人の心にある昔の記憶を呼び戻し、また現在の心情をあらわして、懐かしく面白く、又しみじみするものばかりです。

この度、浦谷様に第一歌集・第二歌集から各々三首を厳選していただきました。

◇第一歌集『うみなる湖』（平成二十八年発行）



泥んこになりしも泥田に遊ばざりき

神聖なるをけがさざらめと

機械にも相性あると駄買いふ

万札入れしも戻りてくれれば

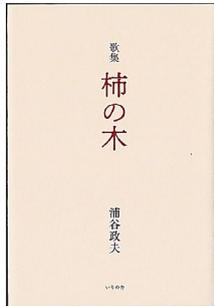
古い母の系を通せぬその様を

笑ひてをりしが笑はれる身に

浦谷政夫さんは昭和十年に滋賀県に生まれた。もの静かで端正なふるまいが印象に残る人だ。これまでの作品から四二〇首を選んで一冊の歌集とした。：決して大げさにならず、身を処してゆく。浦谷さんの歌を見ていると、そんなことを感じさせられる。

（NHK文化センター選者・本木巧氏より）

◇第二歌集『柿の木』（令和三年発行）



木犀の花のかをりの玄関に

匂ひて香し雨降り続く

いまだるる玄関前のライオンの

しつぽの長きにはじめて気づく

喋れずはいと悲しきや饒舌に

なくて寡黙にありて満たさる

（短歌結社「塔」選者・三井修氏選）

【浦谷政夫あとがき】より

第一歌集『うみなる湖』を出版しましたが、平成二十八年三月でしたから、この第二歌集『柿の木』はその五年後になります。ちよつと早すぎることかと思いましたが、元気なうちに出せるものなら、意を決しました。ちよつと四五〇首を収めました。日頃、ご指導いただいている本木巧先生に、「長風」掲載分と、その他から選んで頂きました。長女のあと押しにも助けられ、一冊いたしました。

磯田顧問 追悼文



磯田先生を偲んで

副会長 太田 精翠

磯田先生と初めてお会いしたのは、明治生命の地下食堂でした。私たちのテーブルに少しお洒落な知らないおじさんが来られ、詩吟をやりませんか、詩吟って何？何も判らないまま先生の熱く楽しいお話につられて入会することになりました。後に飯田会長から、千代田に吟キチがいる、ど

こども、何時でも、誰とでも、吟のことなら飛んで行くと聞かされました。それが磯田先生でした。先生には、ゴルフ、海外旅行、カルチャーでの旅行等、数え切れない程お世話になった楽しい思い出があります。会社の寮での一泊ゴルフに度々行きました。行きの中司会、拍手付演歌テープが流れ何処の三流歌手？と聞くと先生の「細雪」でした。(笑)私達、その頃銀座三人娘と呼ばれ、花山副会長、宍倉さん(故人)とともに本当に可愛がって頂きました。

本部審査の折、先生が私達の所に来て下さり、係の先生から何処の人？と聞かれて千代田です、と答えると、だから甘えているのだと言われ、恥ずかしいより嬉しかった思い出です。先生は初期の頃本部大会の受付で、千代田？何処だ？と聞かれ、悔しくて今に岳精流NO1になると決心され、東陽町教場開設後、清水、神田、ハザマと次々に開設され順調に規模が大きくなって、支部昇格、そして千代田岳精会となりました。

詩歌研修、コンダクター教室と千代田会員の学習の場を広げ、何回かの記念大会は先生の企画、実行力で素晴らしい大会となりました。その頃岩崎精慶先生が東陽町教場を支援、先生は丸の内第二教場で毎回黙って伴奏してくださっていました。吟行会で素晴らしい吟を披露され、新人会員が「先生、吟もなさるのですか」と尋ね、私達も驚きましたが先生はただニコニコされ、本当に心の大きい優しい方でした。岩崎先生も反省され、必ず範吟をやって頂くことになりました。

情熱、たゆまぬ努力、有言実行で千代田はもと

より岳精流最高顧問と活躍された磯田先生。明治安田生命新宿ビルを十五年に亘り借りることに尽力頂いた岩崎先生。千代田の礎を築いて戴いたお二人の先生には感謝に堪えません。一番寂しいのは盟友岩崎先生ではないと思います。

最後に磯田先生のご冥福を心からお祈りいたします。

詩吟に余生を注がれた磯田先生

丸の内支部 八田 龍仁

十三年の営業の地方勤務から本社に着任の日、同じように戻られた磯田先生が上司で直接指導を受けることになった。職務に広く高い視点を持たれ、当面の問題に拘りがちな部下を大きく育てようとする懐の広い上司であった。あれから半世紀近くなる。

定年を迎え、飯田精鷹前会長から伊達政宗の「興を遣るの吟」の色紙を贈られ、魅了され、これからの人生、詩吟に注ぎたいと伺った。

その言葉どおり飯田会長を支え千代田教場を岳精流随一の会員を擁する会に育てたが、「千代田を吟道大学にしたい」とよく口にされ、会の中に「詩歌」「演奏」「剣詩舞」「自作自詠」の自主研修、「千代田の未来を語る会」「躍進クラブ(若手育成)」など会員が自主的に運営する土壌を育てられた。

本部では最高顧問まで務められ、業界の高齢化を見通した対策プロジェクトを宗家に提案、拠点作り、会員増加対策にいち早く取り組んだ成果が、

コロナ感染で停滞する斯界で岳精流を支える礎となつている。

掲げた目標に堂々と挑まれ実現、天寿を全うされた『男、磯田の一世に近い見事な生きざま』であつた。

昔、亡くなった同僚に「君の生きざまは粹だった、またあの世で粹を競おうよ」と贈られたの思い出す。粹人としても一流であつた先生は、いまあちらで粹を競っておられるだろう。



女子部研修会

宗嗣を講師にお迎えして開催

新型コロナの数度に亘る感染で自粛を続けた女子部の研修会が、二年振りに講師に初めて宗嗣横山龍精先生をお迎えして開催されました。

日時 令和四年五月三十日(月)

一三時三十分～一六時三十分

会場 新宿文化センターB1展示室

吟題 絶句「蘇台覽古」 蘇軾

俳句「あめつちの」 瞿麦

これまで岳精流最高の講師を本部からお迎えして毎年開催されてきましたが、二年間の中断で千代田女子層にとつて待望の研修会となり、八十余名の参加となり宗嗣の熱気溢れる指導に充実した研修会でした。



女子部研修会再開

女子部部长 藤村 惠風

コロナ禍のため恒例の女子部研修会を自粛していましたが、この度、五月三十日新宿文化センターにて開催することが出来ました。顧問以下全員初の試みに、横山龍精宗嗣を講師にお招きして、若さ溢れる心のこもった力溢れる吟指導に、参加者一同感激し勉強になったと千代田の宗嗣ファンが増えました。

合吟指導、個人指導と限られた時間の中での研修でしたが、有意義に行なうことが出来、今回は男子にも参加して頂き、当日の会場準備、ビデオ撮影等ご協力有難うございました。残念ながら参加できなかった方はホームページの動画を見て下さい、とても参考になります。

今後とも、女子部一同会員の吟力向上、拡大に努めますので宜しくお願いします。



令和五年度 昇伝審査指定吟題

初伝

余生 良寛
春の花を尋ね 菅 三品

中伝

舟中子規を聞く 城野 静軒
春雨に筆庵に到る 広瀬 旭荘
※短歌(自由選題、教本の中から選ぶ
A、B、C型のどれでもよい)

奥伝

潮来の夕 角光 嘯堂
古寺訪梅 渡辺 郷岳
※俳句(自由選題、教本の中から選ぶ)

皆伝

北海道讃歌 森 みつ
旅夜懐を書す 杜甫

【新会員紹介】

◇丸の内支部教場

玉木 賢明氏 (三月入会)

川口心山氏が馴染みの店で多趣味の方と伺い、初めて声をかけ俳句をやると聞いたので、詩吟を勧めたところ興味を持たれて教場見学に見えました。弁護士さんで日程の調整に苦労

しながら熱心に出席されています。この情勢下
貴重な新会員です、期待しています。

◇金町教場

金指久美子さん（令和三年十二月入会）

葛飾区広報で入会されました。電話にてお話
させて頂くうちになんと、副幹事長顧問 前澤
精淳先生の従姉妹様とのこと。教室にはご自宅
から徒歩六分ほどとお近くで毎回熱心に出席
されています。

前澤先生と似た六本のとても良いお声で
朗々と吟じられ「吟は人なり」との言葉を改め
て感じさせていただいております。

中川 史郎氏（七月入会）

区の広報を見て、と電話を頂きました。その
第一声の響きの良い声にびっくり。ご本人いわ
く電話の声だけは誉められるとか。見学一日目
から、会詩、詩文と大きな声を出され若々しく、
今後大いに期待される新人さんです。

◇鎌倉教場

川村 敏宗氏（七月入会）

六月十一日に行われた全国吟道大会を見学
し、詩吟の迫力に感動いたしました。七月から
入会させていただきましたが、鎌倉教場では先
輩方に温かく迎えて頂き大変感動しております。
これから楽しみながら学んでいきたいと思
います。宜しくお願い致します。

◇桜ヶ丘教場

吉田 焯命氏（二月入会）

吉田氏は笠教場長の同郷の幼馴染で上京さ
れ入会となりました。キミヨウ！素晴らしい名

前で本来は仏教用語ですが、そばに居るだけで
気迫が湧いて来ます。これからの練習がますます
楽しくなってきました。

小川 知子さん（四月入会）

詩吟とは別世界のように思っていました。七
十過ぎての手習いではありますが入会させて
いただきました。難しい詩吟を楽しみながら続
けていければと思います。
宜しくお願い致します。

訃報

◆木戸 彪泉氏（新陵教場）

一月二十六日逝去されました。享年七十七歳。
学生時から詩吟に親しまれ、会社時は長年台湾に
駐在されて漢詩及び歴史に詳しく教場で頼りに
した方でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆西坂 佳山氏（新陵教場）

二月十四日逝去されました。享年八十四歳。
大手商社に勤務され中国をはじめ世界市場を相
手に大きな足跡を残された方で、ソフトな語り口
と優しい物腰の中に強い芯を感じさせる人です。
謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆渋谷 龍報氏（顧問、銀座教場・退会）

四月十七日逝去されました。享年九十四歳。
陸軍士官学校最後の生徒として第二次世界大戦
の終戦を体験された世代でした。謹んでご冥福を
お祈りいたします。

編集後記

新型コロナ発生から二年を超えたが鎮静した
とは言えない状態が続いている。初期は感染経路
も、予防法も、治療法も手探りで専門家は右往左
往、行政は自助努力としか言えない状態で、拡大
を恐れ人が集まることも自粛され吟界の打撃は
大きかった。

我々国民は予防、治療経験を積み重ね、岳精流
は全国吟道大会を一昨年は中止、昨年はコロナに
負けない大会と十分に実施できなかったが、今年
は感染予防に手を尽くして六月十一日に開催、ま
だ全国からの参加とはいかないが千代田と縁の
深い鹿児島支部から田尻映風さんが五名の会員
を連れ参加となった。我が千代田は地元会として
一五二名が申し込み大会を支えた。

千代田の創立三十五周年記念大会は一年延期
されましたが「三十五周年記念の集い」として十
月二十八日に開催します。実行委員の準備で全員
複数回登壇を基本に準備が進んでいます。

元通りとはいきませんが徐々に普段に戻ると
思います。この間に会・教場幹部の若返りも進み
環境に順応した活動を期待します。

八田 龍仁

